



札幌部会(第6回)

日時:	2013年2月2日(土) 14:30-17:00
場所:	Sapporo55ビル5階 キャリアバンクセミナールーム
参加者:	野間(同志社大)、濱地(道教大札幌校)、平岡(札幌大谷大)、川瀬(札幌開成高)、松澤(札幌藻岩高)、志田(北海道千歳北陽高)、中村(札幌光星高)、吉川(北海道登別明日中等)、山下(札幌市立啓明中)、兼間(札幌市立平岡中学校)、清水(札幌市立平岡中央中)、竹内(浦河町立浦河第一中学校)、井濶(上富良野町立東中中)、高橋(富良野市立樹海中)、山崎(北海道豊富高)[順不同]

【内容要旨】

1. 野間先生より、東京部会レポートに基づいて、年次大会、夏休み経済教室、ワークショップ(川口、稚内)について告知があった。また、神奈川でワークショップを開催することを予定していることについて報告があった。そこで、北海道での経済教室のプランについて議論があり、札幌部会では、7月29日か30日のどちらか1日を希望するという事になった。証券業協会との共催をどのようにするかについては課題として残った。
2. 山崎より、2月8日の豊富高校での実践授業、9日の稚内北星大学でのワークショップについて内容説明、案内があった。
3. 以下、各先生より実践報告があった。
 - ① 志田先生より、「アルバイトから考える労働法教育実践」の資料を基に、労働と社会保障に関する学習を通して、最低賃金や非正規雇用の問題を考えさせる実践について報告があった。参加者からは、最低賃金を高くすれば労働需要を全て満たすことができずに逆に失業が多くなる点や、非正規雇用を禁止すれば企業はより安価な賃金を求めて海外に出て行ってしまふ点もあることを考慮に入れる必要があるというコメントがあった。
 - ② 竹内先生より、「今日は『金融』の学習」のPP資料と考査問題の資料を基に、河原先生の著書を参考にした実践について報告があった。このことに関して参加者から、以前は、「借金は悪いこと」と書いている教科書が多かったが、近年は、「貯金をすることは投資に結びつく」という記述などに変わってきているというコメントがあった。また、円高メカニズムや貿易赤字の理解として、「輸入で円安になるのは損であり、輸出で円高になることは得だ」ということを教えるべきか、または、「貿易赤字が増えてもマクロ的に考えると、結局、外国から投資として日本に戻ってくることになるから得でも損でもない」と教えるべきかについての議論があった。このことについては、輸出入で円高、円安を教える程度でいいのではないか。しかし、貿易については、ゼロサム思考でなく、プラスサム思考で考えさせる必要があるというコメントがあった。
 - ③ 松澤先生より、「国際経済の指導」の資料を基に、円高、円安の教え方について、1円=0.01ドルなどのように換算して教えるとわかりやすいのではないかという説明があった。円高、円安の教え方として、学校教育段階では、みんな円を欲しがったら需要が上がり円高になることと、金利が高い国の通貨を欲しがると需要が



上がるという程度の教え方でいいのではないかというコメントがあった。

- ④ 兼間先生より、1月28日の北海道新聞朝刊に掲載された『『需要と供給』記事で学ぶ』の授業(極端な燃料不足の中でガソリンを優先的に売るべき相手を考えさせる内容)についての報告があった。参加者からは、新聞の授業は、経済というより倫理的な内容であり、『ランチタイムの経済学』(S・ランズバーグ)などにも書かれているように、「より儲けを増やすには」、「台数を減らすにはどうしたらいいか」など、需要と供給をつり合わせるためにどうしたらいいかを考えさせる必要があるというコメントがあった。また、「最近の公立学校入試問題の傾向について」の資料を基に、歴史、地理分野から実際に出题された経済の問題について説明があった。
- ⑤ 川瀬先生より、『ゲームブック 君ならどうする食糧問題』(M・アラビー)を使った実践について報告があった。これは、ご自身が25年前に実際に教材として使っていたものであり、チャートで進む内容で様々な結論があることから、「選択」を保証する教材として有効なものである。そして、札幌部会レポートに基づいて、このような教材を参考にして、北海道バージョンの経済教育、北海道らしい教材づくりコンセプトを作っていくことを訴えられた。
4. 最後に、北海道の経済教育を進めるに当たって、平岡先生より、大谷大学や北海学園大学の現状についての報告、濱地先生より、証券業協会の催しの報告、『社会科教育』(明治図書出版)の記事PR、清水先生より、金融経済教育フォーラムの報告、中村先生より金融教育公開授業の報告があった。

(文責:北海道豊富高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定: 5月18日(土)14:30~17:00。場所は未定。議題は、北海道らしい教材づくり、授業のネタ、参加者からの活動報告、その他。